

地域コミュニティビジョンへの意見等集約表(委員会後の意見集約シートからの意見)

No.	頁	項目	意見等	考え方
1	52	第4章-2-(2)-① 地域づくり計画の策定・見直し	地域コミュニティが「地域づくり計画」を作成する際は、きちんと地域の様子や実態を把握し、課題や問題点、振興策を考える必要があります。しかしながら、地域(コミュニティ)では、地域の様子や実態について、感覚的にわかっている程度に過ぎないように思います。振り返ると設立準備会では、地域を具体的に知り、課題解決策や振興策を考えていくなど、きちんとプロセスを踏んで進めていました。設立準備会から数年がたち、「地域づくり計画」の策定・見直しには、何よりも行政からの情報提供や支援(人的・物的)が必要と考えますので、十分な組織的な支援を望みます。	「地域づくり計画」の策定・見直しには、行政からさまざまな支援が必要だと認識しており、「地域づくり計画」策定等のためにアクションプランの作成や、中間支援組織の体制を整備し、それらを交えて協働で取り組みます。
2	60	第3章-3-(2) 様々な主体による中間支援の確立	文中に「中間支援の設立を目指し、…」とあります。図表4-3でも示されていますが、行政とコミュニティ組織との関係性など、具体的にイメージしにくいように思います。P.62にNPO法人の紹介が出ていますが、活動や支援体制がわかるように事例紹介の機会も必要ではないでしょうか。	当市においては今後、市が考える中間支援組織のあり方を整理し、その活動や支援体制、活用方法を示していきます。
3	64	第5章-1 これまでの振り返り	タイトル「これまでの振り返り」を、「これまでの振り返りと課題」とした方が、P.65以降につながると思います。	具体的な課題は次頁以降の記述のため、タイトルは変更しないこととします。
4	64	第5章-1 これまでの振り返り	P.64の18～21行目と、前回会議で赤字追加されている3行目(22～24行目)の文書を入れ替えたほうが、まとまりやすいように思います。	ここでの振り返りは4章までの内容についてであり、22～24行目の内容については次ページ以降の記述であるため、入れ替えは行わずにこのままとします。
5	65	第5章-2 残された課題について 地域コミュニティと学校教育	P.65の11行目の「しかし、少子化によって子育て……」から15行目までの5行は削除し、少子化と子育て世代数の減少が重要課題であるという表現に留めてはどうかと思います。この問題はビジョンで方向性を決めるものではないと考えます。具体的に委員会を設置して検討すべきであると思います。	第5章-2で記述した内容については、学校教育そのものを課題としている訳ではなく、地域コミュニティの将来を考えるなかで学校は地域づくりの拠点であるため、全ての住民があり方を考えるべきであるという問題を定義するという趣旨で書いています。この内容については、教育委員会とも協議をしたうえで一定の理解を得た内容であり、このままの記述とします。
6	65	第5章-2 残された課題について 地域コミュニティと学校教育	地域コミュニティの議論の中で、ここでは小学校のことと理解される「学校教育」について課題提示するのは、やや過大ではないでしょうか。教育機関の存続について、このコミュニティの議論の中で触れるのは、荷が重いと考えます。「小学校＝ふるさと、郷土の心の拠り所」ということであれば、西気や菅谷のように、教育の場としての“学校”以外の残し方もあります。P. 11の「学社協働化」ならまだ分かりますが、この書きぶりは要検討が必要と考えます。	
7	67	第5章-2 残された課題について 地域コミュニティと行政区の関係	「役員のなり手が少ない」のは、「役員の負担が大きい」「行政からの依頼事項が多い」などの他の項目で示されたことが原因ではないでしょうか。そこで、行政区においても仕事を総ざらいして優先順位をつけて整理し直してはどうでしょうか。一方、行政区を中心とした地域コミュニティの活性化のための事業を計画、実施することによって住民の気持ちを高めることが必要だと考えます。	ご指摘のとおり、行政区が抱える課題について、現在共同研究においても調査研究を行っており、それらの結果を踏まえ、今後の支援方法など検討していきます。

地域コミュニティビジョンへの意見等集約表(第5回委員会内での意見)

No.	頁	項目	意見等	考え方
1		全体	「小さな世界都市」や「専門職大学」など、今大きく市が変わってっていますが、このビジョンのなかでもそのことについて触れるべきではないでしょうか。	P.1「第1章-1 地域コミュニティビジョン策定の趣旨と位置付け」に記載します。
2	9 13	第2章-1-(4) 学校教育 第2章-1-(7) 健康福祉	学校教育では「特別な支援が必要な子どもたち」とあり、健康福祉では「障がい者の子」という記述となっていますが、これは統一しておく必要はないでしょうか。	それぞれ異なる意味合いで使用されているため統一はしませんが、「障がい者の子」という表現は改める必要があると考え、「障がいのある子が同居する世帯」に訂正します。
3	26	第2章-2-(2)-③ 地域コミュニティ組織による事業の実施	図表2-40の地域コミュニティ組織の名称と部会について、文字が小さく見づらいものとなっています。1ページ使っても大きく表示すべきではないでしょうか。	見やすいものになるよう修正します。
4	43	第3章-2-(2)-① 地区の防災力が高まっている	雪かきについて、今後どのように取り組んでいくのかということも必要ではないでしょうか。	「第3章-2-(2)-①」に記載します。
5	46	第3章-2-(3)-① 地域の資源を活かして地区が豊かになっている	特産品開発に取り組んだからと言って、地区が経済的に豊かになるか疑問です。単に売るというのではなく、次の世代につなぐというメッセージが必要ではないでしょうか。また、地域のなかでお金を落とすという行為を考えていくべきではないでしょうか。	「第3章-2-(3)-①」に記載します。
6	66	第5章-2-(1) 地域コミュニティと学校教育	図表5-2の表ですが、インパクトを出すのなら5、10年後の数字は折れ線グラフにした方が、危機感として捉えられるのではないのでしょうか。	ここでは住民基本台帳の統計をもとに、0歳児から5歳児までの子どもの数の実態を、あえてグラフ化せずに図表化しました。
7	71	参考資料(用語説明一覧)	都市的地域の説明で、「主に中心市街地やその近郊など…」と記述がありますが、中心市街地というと旧豊岡市の市街地と解釈されるのではないのでしょうか。	「中心市街地」は「市街地」に訂正します。